

(2007年12月)

目 次

繊維情報

・2007年10月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2007年9月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	13
・アジア 中 国 2007年1-10月の繊維品貿易概況.....	16
台 湾 2007年1-9月の繊維品貿易概況.....	20
タ イ 2007年1-9月の繊維品貿易概況.....	23
インドネシア 2007年1-6月の繊維品貿易概況.....	25
・米 州 米 国 2007年10月の繊維品輸入、～ベトナム始めとするASEAN勢の伸びが顕著～.....	28

組合関係の会議と催事

・(2007年11月).....	30
------------------	----

組合業務報告

・トルコ・ルーマニア市場調査団派遣(輸出).....	31
----------------------------	----

お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」について(輸出).....	32
・年末年始の包括保険申込書の受付事務について(輸出).....	33
・「アルメニア」向け他4カ国の保険引受方針変更について(輸出).....	33
・国カテゴリーの変更について(輸出).....	34
・1月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	35
・2008年税関の年末・年始事務処理要領(税関).....	36



2007年10月の繊維品輸出概況

- 前年同月比9%増の7億1,526万ドルと大きく増加 -

2007年10月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比9%増(前年1-10月比:4%増)の7億1,528万ドルと、先月の微減から一転し、大幅な増加となった。

また、為替が2006年10月の118.66円に対し、2007年10月は115.74円と昨年同月に比べ約2%強の円高となったことから、円ベースでは7%増(同6%増)の827億8,700万円となった。

< 主要地域・国別輸出 >

10月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の73%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが6%増と先月の減少から増加に転じ、全体の輸出増加の大きな要因となった。一方、西アジア、欧米の純輸出市場は、引き続き好調を維持し、西アジアは40%増、北米16%増、欧州8%増と各々増勢で推移した。

東アジアは、主要国向けでは、台湾が不振推移となったが、最大市場の中国が5ヶ月振りに微増となったのを始め、香港、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールが軒並み好調に推移し、前年同月比6%増(同横ばい)の5億818万ドルと先月の後退から大きく回復した。

シェア5%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが引き続き好調で、全体として40%増(同21%増)の4,057万ドルと大幅な増加となった。

欧米市場は、シェア10%のEUは、糸類、織物類は不振推移となったが、綿類、不織布、アパレル等二次製品が好調に推移し、12%増(同18%増)の6,907万ドルと先月に続き2桁の増加となった。一方、シェア8%の米国は、織物類、糸類は不振推移となったが、綿類、不織布、アパレル等が好調に推移し、18%増(同9%増)の6,263万ドルとなった。

< 主要品目別輸出 >

これを主要商品別にみると、まず**綿類**の輸出は、全体として、数量で7%減(同1%増)となったが、単価のアップにより、金額では7%増(同13%増)と数量減の金額増となった。

太宗の合繊綿は、数量で15%減(同3%減)、金額で3%減(同10%増)と数量、金額共に低調な推移となった。

主力のアクリル綿は、イラン、インドネシア、米国は増加したが、最大輸出国の中国が大幅に後退し、数量で16%減(同4%減)、金額で3%減(同9%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、タイが健闘したが、中国、マレーシア、米国が後退し、数量で17%減(同6%減)、金額で11%減(同5%増)となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の欧州が低迷し、数量で16%減(同15%増)となったが、単価が上昇し、金額では2%増(同21%増)となった。

スフ綿は、86%を占めるトウが中国、フィリピン、シンガポール、インドネシアを中心に、また、詰め綿用中心のビスコース綿が米国を中心に共に大增勢で推移し、数量で26%増(同21%増)、金額で36%増(同19%増)となった。

糸類の輸出は、数量で4%増(同2%減)、金額で10%増(同4%増)と数量、金額共に増勢で推移した。主力の合繊長繊維糸は、数量で3%増(同2%減)、金額で8%増(同5%増)となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、中国、タイ、米国は減少したが、EU、韓国、台湾が健闘し、数量で2%増(同8%減)となった。但し、金額では単価が低下し、6%減(同6%減)となった。一方、ナイロン長繊維糸は、フィリピンが減少したが、中国、タイ、米国、EUが好調に推移し、数量で18%増(同3%増)、金額で24%増(同8%増)と好調に推移した。

その他の合繊長繊維糸では、アクリル長繊維糸は、主力のEU、米国が大幅に後退し、数量で32%減(同27%減)、金額で17%減(同10%減)となった。

また、人絹糸は中国が減少したが、最大国の韓国、EUが共に倍増となり、数量で31%増(同1%増)、金額で41%増(同10%増)と大幅な伸びとなった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で2%増(同4%減)、金額で6%増(同2%減)と徐々に、数量、金額共に増加推移となった。

織物の内訳では、中心品目の**ポリエステル長繊維織物**は、数量で6%減(同8%減)、但し、単価のアップにより、金額で4%増(同3%減)と、数量減の金額増となった。

地域的には、全体の73%を占める東アジア向けは、台湾、タイが健闘したが、最大国の中国を初め、香港、ベトナム、韓国、シンガポール、スリランカ、フィリピンが減少し、東アジア全体としては9%減(同8%減)となった。

また、純輸出市場向けは、西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアが共に好調に推移し、西アジア全体として18%増(同11%減)となった。

一方、欧米市場向けは、米国が1%増(同13%減)と微増となったが、EUは16%減(同7%減)と2桁の減少となった。

ナイロン織物は、数量で8%増(同3%減)、金額で19%増(同4%増)と数量、金額共に好調に推移した。

シェア84%の東アジア向けは、香港、韓国が大きく減少したが、最大市場の中国、ベトナム、タイが増加し、全体として1%増(同5%減)の微増となった。一方、欧米市場は、シェア6%の米国が31%増(同6%減)と大きく伸びたが、シェア5%のEUは17%減(同60%増)と減少した。

綿織物は、数量で4%減(同9%減)、金額で1%増(同7%減)と数量減の金額微増となった。

80%のシェアを占める東アジア向けは、香港、タイ、マレーシアが好調に推移したが、最大市場の中国、ベトナム、韓国が減少推移となり、東アジア全体として6%減(同11%減)となった。一方、欧米市場は、シェア12%の米国が2%増(同3%増)と堅調に推移したが、シェア2%のEUは16%減(同横ばい)と2桁の減少となった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で20%増(同4%増)、金額で20%増(同5%増)と数量、金額共に大幅な増加となった。

織維品輸出実績（2007年10月）

織維品総合計	単位	2007年10月						2007年1月～10月						2006年実績		
		数量		金額		前年同月比		数量	金額		前年同期比		数量	金額		
		トン	ドル	百万円	千ドル	数量	ドル		百万円	千ドル	数量	円		ドル	百万円	千ドル
原料(綿)合計	トン	31,238	82,787	10,840	715,283	109	346,349	813,441	6,838,215	106	104	406,322	118,992	8,102,550		
スフ綿	トン	7,386	3,209	27,729	93,655	93	62,547	115,106	968,082	101	113	406,322	118,992	1,022,832		
合繊綿	トン	21,312	7,404	63,968	27,729	126	258,619	27,146	228,504	121	125	62,898	25,833	222,022		
(ポリエステル)	トン	3,102	682	5,893	83	89	37,221	85,834	721,681	97	110	313,244	90,882	781,236		
(アクリル)	トン	15,723	5,391	46,575	84	97	194,707	7,873	66,207	94	105	46,753	8,787	75,520		
糸 合計	トン	10,859	9,176	79,292	104	110	108,458	90,340	760,072	98	106	132,706	103,131	886,798		
人絹糸	トン	1,184	1,104	9,535	131	141	10,139	9,482	79,797	101	112	12,210	10,436	89,752		
スフ糸	トン	40	55	479	200	163	307	449	3,781	125	144	301	405	3,486		
合繊長糸	トン	8,845	7,034	60,771	103	108	89,843	71,020	597,607	98	105	109,458	80,070	688,416		
(ナイロン)	トン	1,926	1,596	13,793	118	124	20,468	16,520	139,014	103	111	23,766	18,058	155,289		
(ポリエステル)	トン	2,773	1,327	11,467	102	94	29,582	14,770	124,247	92	96	38,017	18,443	158,578		
合繊短糸	トン	258	202	1,744	91	83	2,555	2,490	20,913	77	84	3,783	3,448	29,676		
綿 糸	トン	385	341	2,945	72	91	4,160	2,958	24,848	104	99	5,070	3,918	33,663		
織物合計	千SM	100,878	30,329	262,048	102	106	947,422	294,014	2,469,970	96	100	1,221,025	366,512	3,151,180		
絹織物	千SM	604	934	8,066	105	101	5,878	9,750	81,971	92	92	7,586	12,682	109,036		
人絹織物	千SM	7,300	2,306	19,928	120	101	64,009	21,786	183,165	106	101	74,363	26,439	227,232		
スフ織物	千SM	889	429	3,704	128	129	7,808	3,584	30,113	102	108	9,863	4,484	38,529		
合繊長織物	千SM	46,297	10,733	92,736	98	112	450,082	107,430	902,022	95	105	582,325	127,729	1,098,929		
(ナイロン)	千SM	5,835	1,297	11,202	108	119	56,991	13,374	112,310	97	107	72,490	15,668	134,852		
(ポリエステル)	千SM	34,572	7,487	64,687	94	104	336,912	75,409	632,974	92	100	447,346	93,225	802,228		
合繊短織物	千SM	17,544	3,854	33,297	121	120	149,783	36,212	304,251	105	110	177,576	41,653	358,097		
綿織物	千SM	23,805	8,692	75,103	96	101	229,728	84,126	706,559	91	95	315,628	112,854	969,680		
毛織物	千SM	4,343	3,306	28,561	84	90	37,805	29,284	246,459	92	93	49,590	37,503	322,469		
不織布	千SM	74,548	6,554	56,627	134	128	611,672	59,589	501,395	121	116	609,944	62,968	541,547		
タイヤコード織物	千SM	2,251	338	2,920	143	117	17,372	2,861	24,096	123	120	17,335	2,872	24,684		
コート織物	トン	1,794	4,357	37,646	122	125	17,062	43,805	368,157	114	116	18,074	46,353	398,997		
ニット生地	トン	6,085	52,577	52,577	109	109	62,597	525,566	525,566	106	103	73,497	631,885			
アパレル	トン	3,993	34,501	34,501	113	113	36,268	305,509	305,509	106	103	40,656	349,292			
その他	トン	11,114	96,027	96,027	107	107	108,861	915,368	915,368	104	101	127,392	1,095,334			

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

全体の55%を占める東アジア向けは、最大市場の中国が減少したが、香港、韓国、シンガポールが大幅に伸び、東アジア全体として3%増(同5%減)となった。一方、シェア43%の民族衣装用の西アジアは、日本品への信頼が厚く、アラブ首長国、サウジアラビア、クエートが揃って大きく伸張し、西アジア全体として57%増(同19%増)と引き続き好調な推移となった。

人絹織物は、数量で20%増(同6%増)と大幅に伸びたが、単価が低下し、金額は1%増(同1%減)に止まった。

シェア74%の東アジアは、台湾が減少したが、中国、香港、韓国が大きく増加し、東アジア全体として21%増(同6%増)となった。また、シェア13%の西アジアは、サウジアラビア、アフガニスタンが増加し、アラブ首長国が減少したが、全体として21%増(同5%増)となった。一方、欧米市場については、米国は79%増(同18%増)と著増したが、EUは17%減(同横ばい)と対照的な推移となった。

毛織物は、数量で16%減(同8%減)、金額で10%減(同9%減)と、数量、金額共に低調な推移となった。

地域的には、東アジアが96%とほぼ全量を占めている。香港、韓国は健闘したが、最大市場の中国、ベトナムが減少し、東アジア全体として18%減(同9%減)となった。

不織布の輸出は、数量で34%増(同21%増)、金額で28%増(同13%増)と数量、金額共に引き続き好調な推移が続いている。

全体の57%を占める東アジアは、タイが減少したが、最大市場の中国を始め、韓国、ベトナムが増加し、全体として45%増(同27%増)の大幅増加となった。

また、欧米市場は、シェア33%の米国は14%増(同13%増)と好調を維持、一方、シェア6%のEUも6%増(同20%増)と堅調な推移となった。

コーテッド織物の輸出も、数量で22%増(同14%増)、金額で25%増(同13%増)と数量、金額共に好調を維持している。

全体の81%を占める東アジアは、タイが減少したが、中国、香港、ベトナムが揃って増加し、全体として24%増(同13%増)となった。

一方、欧米市場は、シェア7%の米国は122%増(同61%増)と倍増し、シェア5%のEUも14%増(同3%増)と2桁の増加となった。

ニット生地の輸出は、数量で12%増(同3%増)、金額で9%増(同3%増)と数量、金額共に好調に推移した。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国、ベトナム、タイ、インドネシアが好調に推移、一方、香港、韓国、台湾は不振推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は後退したが、EUは前月に続き大幅な増加となった。

アパレルの輸出は、金額で13%増(同3%増)と2桁の増加となった。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、中国、EUが減少したが、最大国の米国、台湾、韓国、香港が大幅に伸び、金額で37%増(同12%増)となった。一方、下着類は、中国、香港は増加したが、最大国の台湾を始め、韓国、米国、EUが大きく後退し、金額で40%減(同4%減)となった。

ニット製衣類では、外衣類は、台湾、中国、米国が減少したが、香港、韓国、EUが大きく増加し、金額で19%増(同2%増)となった。一方、下着類は、韓国、中国が増加したが、台湾、香港が大幅に減少し、金額で12%減(同横ばい)となった。

その他二次製品は、敷物類、細幅織物・紐類、漁網類等が揃って増加し、金額で7%増(同1%増)となった。

原料(綿・糸)の輸出

10月の原料輸出動向

単位：トン、千ドル、セント、%

	2007年10月				2007年1～10月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	7,386	126	27,729	375	62,547	121	228,504	365
合繊綿	21,312	85	63,968	300	258,619	97	721,681	279
ポリエステル	3,102	83	5,893	190	37,221	94	66,207	178
アクリル	15,723	84	46,575	296	194,707	96	518,470	266
他合繊綿	2,487	98	11,500	462	26,691	110	137,004	513
人絹糸	1,184	131	9,535	805	10,139	101	79,797	787
合繊長糸	8,845	103	60,771	687	89,843	98	597,607	665
ナイロン	1,926	118	13,793	716	20,468	103	139,014	679
ポリエステル	2,773	102	11,467	414	29,582	92	124,247	420
他合長糸	4,146	99	35,511	857	39,793	100	334,346	840
綿糸	385	72	2,945	765	4,160	104	24,848	597

出所：財務省統計

<綿輸出>

綿の輸出は、主力の合繊綿は、アクリル綿、ポリエステル綿の不振から数量、金額共に減少となったが、金額は単価の上昇により、微減に止まったこと、また、スフ綿が数量、金額共に大幅な増勢を維持したことにより、綿全体では、数量で7%減の3万1,238トン、但し、金額では7%増の9,366万ドルと数量減の金額増となった。

輸出依存度の非常に高いアクリル綿は、数量で16%減の1万5,723トン、金額で3%減の4,858万ドルとなった。

数量ベースで全体の71%を占める東アジア向けは、インドネシアが10%増と健闘したが、最大輸出先の中国が37%減と大幅に減少したのを始め、香港19%減、韓国24%減と軒並み後退し、東アジア全体では29%減の9,608トンとなった。一方、他市場は揃って好調に推移し、西アジアは、イランの大幅増加により

15%増の2,864トン、アフリカはナイジェリア、トーゴ等の好調により19%増の1,374トン、米国は20%増の1,015トン、EUは3%増の532トンとなった。

ポリエステル綿は、数量で17%減の3,102トン、金額で11%減の589万ドルとアクリル綿と同様に、不振推移となった。

最大市場の東アジアは、数量ベースで、主力のタイが38%増と大幅増加となったが、中国が16%減、マレーシア69%減、インドネシア56%減と各々減少し、東アジア全体では3%減の1,818トンとなった。欧米市場も不振で、EUは、ベルギー、イタリアが後退し20%減の985トン、一方、米国は49%減の267トンとなった。

その他品目では、資材用が中心の**ビニロン綿**は、中国を中心とする東アジアは好調に推移したが、主力の欧州向けが、ドイツ、イタリア、ポーランド等が振るわず、全体では数量で16%減の1,172トンとなった。但し、金額は単価が上昇し2%増の464万ドルとなった。

スフ綿は、数量で26%増の7,386トン、金額で36%増の2,773万ドルと好調を維持している。アセテート・トウが83%を占めているが、そのアセテート・トウはEU、南アフリカは減少推移となったが、中国、シンガポール、ベトナム、フィリピン、インドネシアが大幅に増加し、全体では、数量で24%増の6,338トン、金額で30%増の2,438万ドルとなった。

一方、ビスコースレーヨン綿は、量は少ないが、米国を中心に、このところ、爆発的に増加しており、数量で46%増の1,024トン、金額で122%増の322万ドルと著増した。

<糸輸出>

注：財務省輸出統計において、合繊長繊維系に分類される品目で、2007年から「弾性を有するもの」及び「ポリプロピレン」の2品目が新設されたことから、本年度の統計には「弾性を有するもの」の中にナイロン、ポリエステル、ポリウレタン等の長繊維系が一部含まれていると推測され、下記品目別の対前年比が整合性に欠けるものとなっている。特に、ポリウレタン長糸は新設された「弾性を有するもの」に殆んどが分類され、統計に上がっていると推測されるので、特に、ポリウレタン長糸の正確な実績は不明である。

参考までに「弾性を有するもの」の今年の輸出実績は次ぎのとおり。

2007年 1月	870トン、698万ドル	2月	850トン、718万ドル
	3月1,544トン、1,266万ドル	4月	1,069トン、946万ドル
	5月1,158トン、1,016万ドル	6月	1,424トン、1,157万ドル
	7月1,085トン、991万ドル	8月	1,143トン、1,060万ドル
	9月1,280トン、1,106万ドル	10月	1,232トン、1,113万ドル

糸の輸出は、人絹糸、合繊長繊維系が好調に推移し、全体では数量で4%増の1万859トン、金額で10%増の7,928万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。

主要品目の中でナイロン長繊維系は、数量で18%増の1,926トン、金額で24%増の1,379万ドルと好調に推移した。シェア78%の東アジアは、フィリピンが低調な推移となったが、最大市場のタイ、中国、台湾、香港、インドネシアが増加し20%増の1,665トンとなった。その他では、シェア12%のEUは、ドイツ、ポルトガル、ポーランドが好調に推移し39%増の143トン、また、シェア4%の米国も70%増の96トンとなった。品種別では、タイヤコード用等の「強力系」がシェア63%を占め、数量で37%増の1,137トン、一方、衣料用途用等の「その他系」は1%増の789トンとなった。

ポリエステル長繊維系は、数量で2%増の2,773トンとなったが、単価が低下し、金額では6%減の1,147万ドルと数量増の金額減となった。シェア60%の東アジアは、台湾、韓国、香港、インドネシアは増加したが、最大市場の中国、タイが減少し、5%減の1,690トンとなった。その他ではシェア15%の米国は56%減と激減したが、シェア13%のEUは186%増と著増した。品種別では、「その他系」がシェア73%を占め、2%増の2,177トン、「強力系」も2%増の596トンとなった。

その他では、アクリル長繊維系は、数量で32%減の1,281トン、金額は17%減の783万ドルとなった。欧米向が主体であるが、主力のEUはフランス以外何れも不振で36%減と激減し、一方米国も19%減と2桁の減少となった。

この結果、合繊長繊維系全体では、数量で3%増の8,845トン、金額は8%増の6,077万ドルとなった。

人絹系は、数量で31%増の1,184トン、金額で41%増の954万ドルと数量、金額共に大幅な増加となった。主力の東アジアは、中国が減少したが、最大国の韓国が倍増となり、全体で26%増、またEUはイタリア向けが好調で100%増となった。

天然繊維関係では、量は僅少であるが、綿糸は、最大市場の中国が39%減と激減、香港は17%増となったが、全体では数量で28%減の385トン、金額は17%減の174万ドルとなった。この中国、香港の2カ国で全体の89%を占めている。

． 織・編物(絹・化合織・綿・毛)の輸出

10月の織物(絹・化合織・綿・毛)の輸出は、毛織物は低迷推移、主力の綿織物、ポリエステル長繊維織物は数量減の金額増となったが、ポリエステル短繊維織物が大幅に増加したのを始め、ナイロン織物、人絹織物等が好調に推移し、織物トータルでは、数量で前年同月比2%増(前年同期比:4%減)、金額で6%増(同2%減)と、久々に数量、金額共に増勢推移となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないニット生地、コーテッド織物も揃って数量、金額共に増勢推移となった。

織物トータルで、市場的に見ると、主力の東アジアは、主要国では、韓国、台湾、シンガポール、インドネシア、タイ、マレーシアは数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移した。また、香港は数量減の金額増となった。一方、中国、ベトナム、フィリピンは数量、金額共に前年同月を下回り不振推移となった。

純輸出市場については、西アジアが、アラブ首長国、サウジアラビア向けが、ラマダン用需要もあって、数量、金額共に揃って前年同期を大幅に上回り、大增勢で推移したのが特筆される。

また、欧米市場は、EUは、主力のポリエステル長繊維織物が不振で、数量、金額共に前年を下回った。一方、米国は数量が前年を上回ったが、金額は単価が低下し、前年を下回った。

1. 各品目の輸出状況

(単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%)

	2007年10月			2007年1-10月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	604	8,066	105	5,878	81,971	92
人絹織物	7,300	19,928	120	64,009	183,165	106
スフ織物	889	3,704	128	7,808	30,113	102
合織(長)織物	46,297	92,736	98	450,082	902,022	95
ポリ(長)織物	34,572	64,687	94	336,912	632,974	92
ナイロン織物	5,835	11,202	108	56,991	112,310	97
合織(短)織物	17,544	33,297	121	149,783	304,251	105
ポリ(短)織物	16,317	30,975	120	138,611	279,478	104
綿織物	23,805	75,103	96	229,728	706,559	91
毛織物	4,343	28,561	84	37,805	246,459	92
コートド織物	1,794	37,646	122	17,062	368,157	114
ニット生地	16,919	52,577	112	157,263	525,566	103

- (注) 1. ポリエステル(長)、ナイロン(長)織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。
2. コートド織物の数量単位はトン。

2. 品目別特記事項

ポリエステル長繊維織物

ポリエステル長繊維織物の10月の輸出は、数量で前年同月比6%減(前年同期比:8%減)、金額で4%増(同3%減)と数量減の金額増となった。

数量で全体の73%を占める東アジアは、主要市場では、台湾6%増(同10%減)、タイ48%増(同1%増)、インドネシア124%増(同36%減)と健闘したが、最大市場の中国が8%減(同8%減)と減少したのを始め、香港31%減(同18%減)、韓国16%減(同8%減)、ベトナム2%減(同5%増)、シンガポール8%減(同10%減)、マレーシア28%減(同15%減)、スリランカ31%減(同27%減)、フィリピン21%減(同10%減)と軒並み減少し、東アジア全体として9%減(同8%減)となった。

純輸出市場は、西アジア向けは、アラブ首長国が10%増(同8%増)、サウジアラビアが47%増(同18%減)と各々好調に推移し、西アジア全体として18%増(同11%減)となった。

一方、欧米先進国市場は、米国が1%増(同13%減)の微増となったが、EUは16%減(同7%減)と2桁の減少となった。

EUの主要国別では、スペイン43%増(同14%減)、イタリア16%増(同1%増)と増勢で推移したが、ドイツが14%減(同8%増)、英国33%減(同22%減)、フランス54%減(同11%減)と各々不振推移

となった。

ポリエステル(長)織物の1-10月の加工別輸出を見ると、太宗の浸染品は6%減、プリント品が6%減、生機・晒品が20%減と各々減少推移、一方、糸染品は7%増と健闘している。

ポリエステル短繊維織物

10月のポリエステル短繊維織物の輸出は、数量で20%増(同4%増)、金額で20%増(同5%増)と数量、金額共に大きく増加した。

市場的には、シェア55%の東アジアと同43%の西アジアの両地域向けでほぼ全量を占めている市場構成に変わりはないが、10月は東アジアの微増に対し、西アジアは先月に続き大幅増と西アジアの好調が目立っている。

東アジア向けについては、主要国では、最大市場の中国が7%減(同9%減)、インドネシア30%減(同27%減)と減少し、ベトナムが横ばい(同10%増)に止まったが、香港49%増(同6%減)、韓国179%増(同24%減)、シンガポール117%増(同8%増)と増加し、東アジア全体として3%増(同5%減)となった。

民族衣装用中心の西アジア向けは、日本品への回帰、またラマダン用需要増もあり、サウジアラビアが79%増(同21%増)、アラブ首長国52%増(同29%増)、クエート148%増(同21%増)と激増し、西アジア全体として57%増(同19%増)と大幅な増加となった。

品目別にポリエステル(短)織物の1-10月の輸出を見ると、太宗のT/C織物が6%減、T/R織物が4%減となっているのに対し、100%スパン織物が5%増、また、その他交織織物は22%増と2桁の増加を記録している。

その他絹化合物織物

ナイロン織物の10月の輸出は、数量で8%増(同3%減)、金額で19%増(同4%増)と数量、金額共に好調な推移となった。

全体の84%と圧倒的なシェアを占める東アジアは、香港34%減(同31%減)、韓国78%減(同15%減)と減少したが、最大市場の中国が18%増(同3%増)、ベトナムが38%増(同5%減)、タイ30%増(同38%減)と各々増加し、東アジア全体として1%増(同5%減)の微増となった。

一方、欧米市場は、シェア6%の米国は31%増(同6%減)と大幅な増加となったが、このところ好調に推移していたシェア5%のEUは17%減(同60%増)と2桁の減少となった。

加工別の1-10月の輸出は、太宗の浸染品が3%増、プリント品が50%増、一方、生機・晒品は15%減となっている。

人絹織物の10月の輸出は、数量で20%増(同6%増)と大幅増となったが、単価の低下により、金額では1%増(同1%減)の微増に止まった。

全体の74%を占める東アジア向けは、台湾が15%減(同18%減)と減少したが、最大市場の香港が60%増(同6%増)、中国6%増(同13%増)、韓国47%増(同47%増)と好調に推移し、東アジア全体

として21%増(同6%増)となった。

東アジア以外の市場では、シェア13%の西アジアは、アラブ首長国が20%減(同5%増)となったが、サウジアラビアが2%増(同1%増)、アフガニスタンが著増し、全体として21%増(同5%増)となった。

一方、欧米市場は、シェア4%の米国は79%増(同18%増)と大幅な増加となったが、同じくシェア4%のEUは17%減(同横ばい)と2桁の減少となった。

1-10月の素材別輸出では、全体の54%のシェアを占めるアセテート織物は3%増、同37%のキュプラ織物は14%増と健闘しているが、同7%のビスコース織物は6%減となっている。

加工別では、太宗の浸染品は2%増、生機・晒品が20%増、糸染品が5%増、一方、プリント品は39%減となっている。

スフ織物の10月の輸出は、数量で28%増(同2%増)、金額で29%増(同5%増)と、前月に続き、数量、金額共に大幅な増加となった。

全体の82%を占める主力の東アジア向けは、圧倒的シェアを占める持ち帰り用中心の中国が35%増(同2%増)、香港192%増(同94%増)と共に先月に続き大幅に増加し、東アジア全体として22%増(同9%増)となった。

その他主要市場では、シェア9%の米国は12倍増(同4%増)と著増したが、シェア8%の西アジアはアラブ首長国、サウジアラビアが揃って激減し、59%減(同14%減)となった。

絹織物の10月の輸出は、数量で5%増(同8%減)、金額で1%増(同10%減)と数量、金額共に堅調な推移となった。

全体の90%を占める東アジア向けは、最大市場のベトナムが16%増(同2%減)と健闘したが、中国が23%減(同21%減)、香港12%減(同17%増)と各々減少し、東アジア全体として横ばい(同8%減)となった。

その他市場では、量的には僅少であるが、シェア7%の民族衣装用主体の西アジアは、アラブ首長国が大きく伸び、全体として42%増(同7%減)となった。

綿織物

綿織物の10月の輸出は、数量で4%減(同9%減)、金額で1%増(同7%減)と、数量減の金額微増となった。

全体の80%と圧倒的なシェアを占める東アジア向けは、主要国では、香港2%増(同6%減)、タイ3%増(同20%減)、マレーシア29%増(同3%減)、台湾7%増(同9%減)と健闘したが、最大市場の中国が8%減(同13%減)、ベトナム4%減(同19%増)、韓国17%減(同16%減)、フィリピン40%減(同4%増)と減少し、東アジア全体として6%減(同11%減)となった。

他市場では、シェア12%の米国は2%増(同3%増)と堅調な推移となった。

1-10月の加工別輸出では、太宗の糸染品は1%増と増勢を維持しているが、浸染品は10%減、プリント品は14%減、晒品は19%減、生機品は23%減と何れも減少推移となっている。

コ-テッド織物

10月のコーテッド織物の輸出は、数量で22%増(同14%増)、金額で25%増(同13%増)と数量、金額共に引き続き好調を維持している。

全体の81%のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国が23%増(同17%増)、香港36%増(同1%減)、ベトナム23%増(同29%増)、インドネシア52%増(同11%増)と各々好調に推移し、タイが30%減(同7%増)と減少したが、東アジア全体として24%増(同13%増)となった。

一方、欧米市場は、シェア7%の米国は122%増(同61%増)と大幅な増加を継続しており、シェア5%のEUも14%増(同3%増)と2桁の増加となった。

毛織物

10月の毛織物の輸出は、数量で16%減(同8%減)、金額で10%減(同9%減)と数量、金額共に2桁の減少となった。

市場的には、東アジアが96%とほぼ全量を占めている。主要国では香港が10%増(同9%減)、韓国23%増(同5%減)と健闘したが、最大市場の中国が21%減(同11%減)、ベトナム28%減(同35%増)と減少し、東アジア全体として18%減(同9%減)となった。

ニット生地

ニット生地の10月の輸出は、数量で12%増(同3%増)、金額で9%増(同3%増)と、数量、金額共に好調な推移となった。

市場的には、東アジアが圧倒的なシェアを占めているが、これを主要国別に見ると、全体の62%のシェアを占める最大市場の中国が20%増(同8%増)、ベトナム1%増(同2%減)、タイ20%増(同13%減)、インドネシア82%増(同13%増)と好調に推移した。一方、香港11%減(同10%減)、韓国10%減(同2%増)、台湾12%減(同10%減)と各々低調な推移となった。

また、欧米先進国向けは、米国が24%減(同14%増)と低迷したが、EUは32%増(同33%増)と前月に続き大幅な増加となった。

． 主要繊維二次製品の輸出

<概況>

繊維二次製品の2007年10月の輸出は、金額(ドル)ベース(以下同じ)で、アパレルは、布帛製及びニット製の下着類は何れも減少したが、太宗の布帛製及びニット製の外衣類は何れも好調に推移し、全体では前年同月比13%増の3,450万ドルと2桁の伸びとなった。他方、その他の品目については、敷物が大幅増加となり、また、細幅織物・紐類及び漁網・その他の網・網地等も増勢推移となった。

2007年10月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、 金額：前年比%

	2007年10月		2007年1～10月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	19,868	112	177,684	105
外 衣	14,848	139	115,035	112
下 着	2,412	60	36,546	96
スカーフ・マフラー	595	124	5,894	95
ニット製衣類・付属品	14,633	115	127,825	102
外 衣	7,279	119	47,859	102
下 着	3,432	88	50,921	100
敷 物	3,858	170	29,700	125
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	3,703	132	34,316	92
細幅織物・紐類	15,483	104	143,897	98

<アパレル>

布帛製外衣：主要市場では、中国が4%減、EU2%減と不振推移となったが、最大市場の米国が111%増と倍増、台湾8%増、韓国60%増、香港19%増と各々好調に推移し、全体として39%増の1,485万ドルと大幅に増加した。なお、この6カ国・地域で全体の94%を占めている。

布帛製下着：主要市場では、中国が162%増、香港26%増と大きく伸びたが、最大市場の台湾が68%減、韓国51%減、シンガポール36%減、タイ47%減、EU48%減、米国18%減と各々不振推移となり、全体として40%減の241万ドルとなった。なお、この8カ国・地域で全体の96%を占めている。

布帛製スカーフ・マフラー類：米国が9%減と減少したが、最大市場のアラブ首長国が24%増、サウジアラビアが著増、香港5%増、EU87%増と各々増加し、全体では27%増の60万ドルとなった。なお、この5カ国・地域で全体の83%を占めている。

ニット製外衣：主要市場では、台湾が15%減、中国6%減、米国11%減と各々減少したが、最大市場の香港が47%増、韓国72%増、EU26%増と増加し、全体では19%増の728万ドルとなった。なお、この6カ国・地域で全体の97%を占めている。

ニット製下着：主要市場では、韓国が123%増、中国8%増と増勢推移となったが、最大国の台湾が32%減、香港21%減、米国30%減、EU16%減と各々低調な推移となり、全体では12%減の343万ドルとなった。なお、この6カ国・地域で全体の95%を占めている。

<敷物>

主要国では、台湾が37%減、タイ17%減、メキシコは壊滅と不振推移となったが、その他は、最大市場の中国が61%増、ベトナム25%増、香港60%増、韓国63%増、インドネシア12倍増、米国21%増、EU457%増と軒並み好調に推移し、全体では70%増の386万ドルと大幅な増加となった。

<漁網・その他の網・網地>

主要国では、香港が42%減、韓国7%減、米国72%減、オーストラリア8%減と各々後退したが、最大市場のベトナムが37%増、中国79%増、フィリピン205%増、台湾12倍増、ロシア124%増、チリ485%増、EU2%増と増加し、全体では32%増の370万ドルと好調な推移となった。

<細幅織物・紐類>

主要国では、香港が5%減、タイ34%減、シンガポール7%減、フィリピン3%減、メキシコ74%減、台湾15%減と減少したが、最大市場の中国は横ばいに止まり、韓国が36%増、ベトナム10%増、米国3%増、EU30%増と増勢で推移したことから、全体では4%増の1,548万ドルとなった。

2007年9月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

9月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比93.9%（前月比は95.5%）、ドルベース同95.5%（前月比は97.0%）、数量(重量)同91.7%（前月比は97.8%）となり、円金額が6ヶ月ぶりに減少、ドル金額は3ヶ月ぶりの減少、数量は前月に引き続き2ヶ月連続で減少。前月比は、金額、数量(重量)ともに秋冬物の入荷時期を迎えたにも係わらず減少した。

糸類は数量で前年同期比10.3%減と3ヶ月ぶりに減少。内訳は、絹糸が増加したものの、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸、その他の糸が減少した。織物類は同8.4%減と2ヶ月続けて減少した。絹織物、黄麻織物、人織(長)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加、毛織物、綿織物、人織(短)織物が減少となった。衣類は同8.5%減となり3ヶ月ぶりに減少。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同7.0%減で2ヶ月連続の減少となった。

前月は前年同期比で円金額が4.0%増加、ドル金額も3.2%増加、数量は0.7%の微減となったが、今月は円金額が6.1%減少、ドル金額も4.5%減少、数量も8.3%減と揃って減少となった。なお、9月の為替相場は、前年同月比1円99銭円高の115円02銭。ドル金額の内訳を見ると、糸類が6.1%の減少、織物類も6.2%減、太宗を占める衣類も4.5%減、二次製品も3.5%減少し、繊維製品計では4.5%の減少となった。

2. うち糸類

➤ 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比10.8%のマイナス、前年同月比も16.9%の減少となった。

これは、マーケットの縮小傾向に加え輸出国側のオファーの高唱えによるものと思われる。全体の

85%を占める純綿糸の輸入状況を前月に比較すると、国別では首位のパキスタンの9.8%減となったのはじめインド、インドネシア、最近増加傾向にあった中国も25.0%の大幅減少となった。番手別にみると20番手中心が11.5%、30番手中心9.2%、40番手中心27.2%、40番手以上も0.7%減と軒並み減少となった。なお、混紡綿糸も5.7%のマイナスとなった。

- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース41.7%減と4ヶ月続けて2桁の大幅減となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同54.3%減と4ヶ月連続で減少、太宗を占める梳毛糸も同40.4%減となった。国別では、トップシェアの中国が同38.0%減と4ヶ月続けて大きく減少したのに加え、第2位のマレーシアも同51.6%減少した。この他の主要国では、ペルーが増加したものの、台湾、タイ、インド、イタリアからの輸入は減少。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比8.3%減、前年同月比も3.4%のマイナスとなり11ヵ月連続プラスに終止符を打った。これは、主力商品のポリエステル糸の輸入が7月の史上最高をピークに沈静化してきたことによるものである。ポリエステル以外の商品ではナイロン糸が12.0%、人絹糸も27.2%の大幅減少となった。一方、人織(短)糸はT/C、T/Rのポリエステル紡績糸が15.6%減、アクリル紡績糸も18.7%減となったもののスフ糸が9.9%増となったことにより、全体では前月比11.0%減、前年同月比も9.6%マイナスとなった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで今年2回目となる2千万台で前月比24.0%のダウンとなり、前年同月比も30.1%減となるなど22年1ヵ月ぶり(1985年9月の24,659千SM以来)の低水準輸入となった。これは、需要の縮小もさることながら為替の円安、人民元高、中国の人件費の高騰など採算的なことによるものと思われる。国別に前月に比較すると首位の中国が24.9%減、2位インドネシア9.9%、3位パキスタンも11.2%それぞれ減少した。品種別に見ても、ポプリン、金巾、粗・細布とも減少となった。
- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比13.5%減少し、12ヶ月続けて減少となった。国別では数量で供給国第1位の中国からの輸入が同10.9%減と2ヶ月連続で減少、2位のイタリアからの輸入も20.3%減となった。また、第3位のイギリスも同1.3%減で4ヶ月続けて減少。品種別では、紡毛織物が同15.4%減と8ヶ月連続で減少、主力の梳毛織物も同13.3%減と12ヶ月続けて減少した。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比4ヵ月連続減少の14.4%減となったものの、前年同月比は4.8%のプラスとなり11ヵ月連続の増加となった。商品別に前月に比較すると、主力商品のポリエステル織物が5.8%減となったのはじめ、ナイロン織物12.9%、ポリプロピレンなどその他織物も33.1%の減少となった。国別にみても首位の中国が13.5%、韓国3.8%、台湾10.7%、ベトナムなどその他の国も22.3%と軒並みマイナスとなった。一方、人織(短)織物はスフ

織物が15.1%の増加となったものの、T/C、T/Rで主力商品のポリエステル織物が21.1%の減少となったこともあり、前月比は8.5%減、前年同月比も1.8%の微減となった。

4. うち衣類

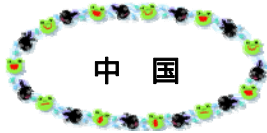
ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で2.5%減、布帛製衣類も同10.5%減、身の廻り品も重量ベース2.1%減少し、衣類計で重量ベース8.5%の減少となった。ニット製衣類が6ヶ月ぶりに減少し、布帛製衣類は2ヶ月続けて減少、身の廻り品は3ヶ月ぶりに減少、衣類計も3ヶ月ぶりに減少した。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は対前年同月比(枚数)でニット製衣類が2.0%減少し6ヶ月ぶりの減少、布帛製衣類は11.4%の二桁減となり2ヶ月連続の減少、身の廻り品は重量ベース1.1%減で3ヶ月ぶりに減少した。今年1~9月の衣類計(重量)のシェアは91.2%で前月から0.2ポイント増(金額ベースでのシェアは82.9%で前月から0.5ポイント増)。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同23.4%減、布帛製衣類も同38.4%の大幅減となり、ニット製衣類が3ヶ月連続で減少、布帛製衣類は17ヶ月連続で減少した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同27.7%の大幅減となり8ヶ月続けて減少、布帛製衣類も同24.5%減少となり4ヶ月続けて減少した。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同15.0%増と3ヶ月続けて増加、布帛製衣類も同3.8%の増加で6ヶ月続けて増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではアンサンブル、ズボン、ドレスが増加、コート、スーツ、ジャケット、スカート、セーター、スポーツウェア、下着類が減少、アウターシャツはほぼ横這いとなった。布帛製外衣類では紳士用が同13.5%減、婦人用も同13.2%減少した。紳士用では、アンサンブル、下着類が増加、コート、スーツ、ジャケット、ズボンが減少、婦人用はドレスが増加、コート、スーツ、ジャケット、スカート、ズボン、ブラウスが減少、アンサンブル、下着類は横這いとなった。

前月は数量が対前年同月比0.7%の微減、金額は円ベースで4.0%増、ドルは3.2%の増加となったが、今月は数量が8.3%の減少、金額も円ベースで6.1%減、ドルも4.5%の減少と、今年3月以来の数量、円・ドル金額揃っての減少となった。

また、今年の第3四半期(1~9月)までで見ると、繊維製品全体では重量ベース前年同期比0.3%減、金額は円ベースで3.8%増、ドルベースで1.0%増となった。また、品目別に重量ベースで見ると、糸類が3.1%の増加、織物が1.9%増、衣類は1.5%減、二次製品類は0.7%減となった。



中国、2007年1-10月の繊維品貿易概況

- 輸出は21%増の1,370億5,182万ドルと依然高率の伸びを維持 -

2007年1-10月の中国の繊維品輸出は、前年同期比21%増の1,370億5,182万ドルと、依然高率の伸びを維持している。

これを月別の伸びで見ると、本年1月の伸びは前年同月比20%増、2月は同74%増と飛躍的に伸び、3月は同23%減と一転して大幅に減少し先行きが注目されたが、以後4月は17%増、5月は19%増、6月は26%増、7月は29%増、8月21%増、9月は26%増、10月22%増と6月以降は20%台の高率の伸びを維持している。

7月から実施された増徴税の還付率の引き下げ、更に8月後半から実施された加工貿易の制限強化の輸出への影響が注目されたが、今のところその影響は統計的には現れていない。

< 地域別・国別輸出状況 >

地域別では東アジアがシェア36%（前年同期比10%増）、ヨーロッパが同27%（同23%増）、北米が同17%（同29%増）、西アジアが同8%（同48%増）、中米が同3%（同35%増）、南米が同2%（同34%増）、アフリカが同5%（同35%増）、大洋州が同2%（同16%増）の市場構成となっており、各地域共に軒並み増勢推移となっている。

国別では、1位EU（220億3,792万ドル：横ばい）、続いて米国（193億8,673万ドル：26%増）、日本（158億9,943万ドル：4%増）、香港（148億6,817万ドル：3%増）、ロシア（83億1,815万ドル：134%増）、韓国（45億3,950万ドル：5%増）、カナダ（37億3,022万ドル：50%増）、アラブ首長国（33億4,745万ドル：52%増）、シンガポール（28億8,037万ドル：79%増）、トルコ（26億7,703万ドル：54%増）、オーストラリア（22億4,110万ドル：15%増）、カザフスタン（18億2,986万ドル：45%増）、インド（15億4,229万ドル：29%増）、南アフリカ（15億242万ドル：14%増）、メキシコ（14億5,405万ドル：11%増）の順となっている。

国別でも軒並み増加推移となっているが、東アジア向けはシンガポールを除き、香港、日本、韓国等は低い伸びに止まっているのに対し、北米の米国、カナダ、ヨーロッパのロシア、トルコ、カザフスタン、またアラブ首長国が大きな伸びを記録している。特にロシア向けの伸びが目覚ましいのが注目される。

またEUは横ばい止まっているが、これは、今年からEUに加盟したルーマニア、ブルガリアが、昨年の著増から、今年は一転して激減しているのが大きな要因である。

< 品目別輸出状況 >

品目別では、中国の繊維品輸出全体の66%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は、25%増の902億5,112万ドルと、全体の伸びを上回り、中国の繊維品輸出を牽引している。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が41%増の506億6,590万ドル、布帛製衣料品及び同付属品の輸出は9%増の395億8,522万ドルで、特にニット製衣料品が大幅な伸びとなっているのが目立っている。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品は、トップ市場は米国(66億9,287万ドル:55%増)、続いて日本(65億2,163万ドル:11%増)、EU(63億4,363万ドル:22%減)、ロシア(57億6,352万ドル:285%増)、香港(42億8,194万ドル:9%増)、カナダ(19億3,922万ドル:119%増)、シンガポール(19億363万ドル:190%増)、アラブ首長国(14億8,691万ドル:126%増)、カザフスタン(12億7,478万ドル:63%増)、韓国(12億4,960万ドル:横ばい)、パナマ(11億798万ドル:201%増)、サウジアラビア(9億2,590万ドル:152%増)の順となっており、米国、カナダ、ロシア、シンガポール、アラブ首長国、サウジアラビア、カザフスタン、パナマは大幅増加、一方、EUは2桁の減少となっている。

布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(97億1,416万ドル:7%増)、以下、米国(76億1,676万ドル:21%増)、日本(67億3,763万ドル:横ばい)、香港(31億9,500万ドル:2%減)、ロシア(15億6,306万ドル:22%増)、韓国(14億4,128万ドル:6%増)、カナダ(12億8,603万ドル:14%増)、オーストラリア(7億6,025万ドル:12%増)、パナマ(6億6,316万ドル:21%増)、スイス(5億7,809万ドル:56%増)の順となっている。

衣料品以外の素材輸出は、原料類(綿・糸)は好調に推移しているが、織物類は特に量的には伸び悩んでいる。

織物類の輸出は、太宗の綿織物、合繊短繊維織物、合繊長繊維織物が、量的には何れも横ばいと伸び悩み、全体として、数量で1%減の148億956万メートルとなった。但し、金額は、単価のアップにより5%増の149億3,279万ドルとなった。

糸類の輸出は、各品目共に増勢で推移しており、合繊長繊維糸、中でも特にポリエステル長繊維糸の伸びが大きく、またその他の綿糸、合繊短繊維糸も増勢を維持しており、全体として数量で21%増の178万8,586トン、金額で18%増の61億1,257万ドルと、数量、金額共に2桁の増加推移となっている。

綿類の輸出は、毛・絹等の天然繊維、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が共に大増勢で推移しており、数量で39%増の57万9,960トン、金額で44%増の16億3,626万ドルと、規模は未だ小さいが、非常に高い伸びを記録している。

- 輸入は2%減の209億4,775万ドルと低調に推移 -

一方繊維品の輸入は、綿類の輸入は、綿花輸入の減少もあり大幅な減少推移、糸類、織物類は国内の増産もあり、共に数量減の金額横ばいと低調な推移となっており、衣料品、ニット生地等は増加推移と

なっているが、全体として2%減の209億4,775万ドルと減少推移となっている。

この結果、中国の2007年1-10月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比27%増の1,161億408万ドルに達した。

< 地域別、国別輸入状況 >

地域別では東アジアがシェア70%（前年同期比：1%増）を占め、西アジアが同2%（同41%減）、ヨーロッパが同8%（同20%増）、北米が同10%（同26%減）、中米が同0.2%（同19%減）、南米が同1%（同14%減）、アフリカが同2%（同29%減）、大洋州が同7%（同24%増）の市場構成となっており、ヨーロッパ、大洋州からの輸入は増加しているが、北米からの減少が目立っている。

国別では、1位日本（29億309万ドル：1%減）、台湾（27億2,806万ドル：2%減）、韓国（22億3,131万ドル：1%減）、米国（21億45万ドル：24%減）、EU（15億6,000万ドル：18%増）、香港（14億6,583万ドル：4%減）、オーストラリア（13億4,696万ドル：26%増）、インド（7億4,858万ドル：2%減）、パキスタン（6億4,177万ドル：7%増）の順となっている。米国の減少は、綿花の輸入減、オーストラリアの増加は羊毛の輸入増が最大の要因である。

< 品目別輸入状況 >

品目別輸入を見ると、綿関係では、天然繊維の輸入は米国よりの綿花の輸入が大きく減少し、また、合繊綿の輸入も低調で、数量で24%減の356万5,563トン、金額で14%減の61億ドルと大幅な減少となった。

糸関係は、太宗の綿糸は微増推移となっているが、合繊長繊維系、合繊短繊維系は共に低調な推移となっており、全体として数量で4%減の141万8,724トン、金額で1%減の36億1,799万ドルとなった。

一方織物類は、太宗の綿織物、合繊短繊維織物が数量減の金額横ばい、合繊長繊維織物が数量減の金額増となっており、トータルでは、数量で7%減の32億9,912万メートル、金額で1%増の48億2,587万ドルと数量減の金額増となった。

その他品目では、ニット生地が金額で10%増の19億1,462万ドル、コーテッド織物が5%増の9億2,785万ドルと増勢で推移している。

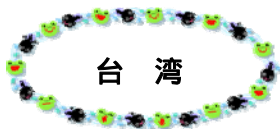
また衣料品は、額は小さいが、ニット製衣料品が9%増の6億6,155万ドル、布帛製衣料品が14%増の8億2,880万ドルと何れも着実に増加している。国別では、1位日本（26億4,147万ドル：2%減）、台湾（24億7,508万ドル：3%減）、韓国（20億4,415万ドル：2%減）、米国（19億1,265万ドル：29%減）、EU（14億3,027万ドル：18%増）、香港（13億1,756万ドル：5%減）、オーストラリア（12億4,096万ドル：31%増）、インド（7億1,900万ドル：3%減）、パキスタン（5億9,526万ドル：9%増）の順となっている。米国の大幅な減少は、綿花の輸入減が最大の要因である。

2007年1-10月の中国の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸 入					輸 出					前年比 数量	前年比 金額		
	2006年実績		2007年1-10月		2006年実績		2007年1-10月		数量	金額				
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額						
繊維品合計		25,683,011	20,947,747		138,077,857	137,051,822		121						
原料(綿)合計	TON	5,410,841	8,183,573	3,565,563	6,100,052	579,960	1,417,518	579,960	139	144				
スフ綿	TON	116,827	344,456	100,750	322,265	104,563	231,450	227	324					
合繊綿	TON	624,567	1,125,033	446,235	909,514	375,376	504,908	134	142					
(ポリエステル)	TON	262,942	341,165	172,330	248,468	332,410	383,110	136	145					
(アクリル)	TON	337,144	687,536	250,082	560,302	2,140	5,380	115	112					
糸合計	TON	1,758,737	4,328,168	1,418,724	3,617,993	1,788,586	6,112,573	121	118					
人絹糸	TON	28,037	85,799	21,594	69,895	84,582	341,971	114	129					
スフ糸	TON	27,651	96,447	20,633	82,647	55,120	211,396	168	158					
合繊長繊維糸	TON	595,118	1,550,919	444,625	1,215,779	696,760	1,727,491	150	161					
(ナイロン)	TON	266,533	755,981	187,467	548,916	89,484	322,565	111	115					
(ポリエステル)	TON	271,784	486,182	210,637	388,505	505,910	876,448	155	162					
合繊短繊維糸	TON	127,743	352,440	105,378	304,975	376,767	1,109,345	113	115					
綿糸	TON	938,218	2,004,437	791,836	1,738,442	498,024	1,649,547	103	107					
織物合計	千LM	4,373,611	5,978,753	3,299,121	4,825,867	14,809,563	14,932,793	99	105					
絹織物	千LM	37,739	107,364	25,907	72,444	198,409	624,903	99	98					
人絹織物	千LM	79,687	142,986	65,920	125,804	32,100	30,026	95	106					
スフ織物	千LM	46,173	89,513	31,558	66,440	647,315	542,065	80	91					
合繊長繊維織物	千LM	1,925,006	2,017,757	1,495,246	1,685,462	5,422,680	4,329,900	101	107					
(ナイロン)	千LM	547,503	547,808	399,173	432,230	173,509	111,378	75	83					
(ポリエステル)	千LM	989,722	1,047,800	733,966	875,357	4,691,515	3,703,685	104	111					
合繊短繊維織物	千LM	623,181	780,132	446,987	624,580	3,176,043	2,630,285	99	108					
綿織物	千LM	1,498,337	2,183,698	1,126,812	1,729,670	5,064,302	5,924,110	100	105					
毛織物	千LM	68,320	514,391	57,827	441,661	89,264	521,610	105	111					
不織布	TON	153,255	596,913	127,925	547,687	180,444	454,744	115	125					
タイヤコード織物	TON	18,241	74,230	15,025	63,543	77,153	258,340	118	124					
コーヤコード織物	TON	239,554	1,075,922	181,136	927,850	600,650	1,557,278	126	133					
ニット生地	TON	487,887	2,153,487	1,459,465	1,914,618	3,846,340	4,791,975	410	425					
ニット製衣料			716,671		661,548		50,665,904		141					
布帛製衣料			867,856		828,800		43,709,665		109					
その他			1,707,439		1,459,788		17,056,736		117					

出所：中国海関統計



台湾

台湾の2007年(1-9月)の繊維品貿易概況

<輸出は前年比2%減の86億3,907万ドルと低迷推移>

台湾の繊維品輸出は、近年は韓国と同様、中国を始めとする新興東アジア諸国との競合激化、国内繊維産業の空洞化等により厳しい環境に立たされているが、台湾の通関統計によれば、2007年1-9月の台湾の繊維品輸出は前年同期比2%減の86億3,907万ドルとなっており、依然停滞を余儀なくされている。

地域的には、全体の70%を占める東アジアは3%減の60億6,542万ドル、シェア12%の北米は7%減の10億6,103万ドル、同6%の欧州は1%減の5億5,015万ドルと主要3地域は何れも苦戦しており、同4%の西アジアが15%増の3億3,043万ドルと唯一好調に推移している。

国別では、昨年までトップ輸出市場であった香港向けが15%減の15億3,951万ドルと大幅に減少し、代わって中国向けが4%増の16億6,618万ドルでトップ市場となっているのが注目される。以下米国(9億9,493万ドル:7%減)、ベトナム(8億7,895万ドル:13%増)、EU(4億3,681万ドル:9%減)、インドネシア(3億6,570万ドル:1%増)、日本(2億7,499万ドル:8%増)、タイ(2億2,707万ドル:横ばい)、カンボジア(2億2,307万ドル:3%増)、フィリピン(1億7,517万ドル:8%減)の順となっており、米国、EUの不振が輸出停滞の大きな要因となっている。

品目別輸出では、原料類(綿・糸)、織物類、衣料品が揃って伸び悩んでいる。

原料関係の輸出は、綿類の輸出が、数量で19%減の49万913トン、金額で4%減の8億6,158万ドルと数量、金額共に減少推移となった。

太宗の合繊綿は、アクリル綿が数量減の金額増となっているが、中心品目のポリエステル綿が大幅に減少し、全体で、数量で19%減の39万7,171トン、金額で6%減の6億5,226万ドルとなった。

合繊綿の主要市場は、金額で、中国、米国、EU、イラン、香港、ベトナムの順で、この6カ国で全体の65%を占めている。米国、イランは、数量、金額共に大幅な増勢推移となっているが、逆に中国、ベトナム、香港、EUは、数量、金額共に大きく減少している。

糸類の輸出は、数量で3%減の73万5,042トン、金額で横ばいの16億5,654万ドルと数量微減の、金額横ばいとなった。最大品目の合繊長繊維糸は、ナイロンは不振推移となっているが、太宗のポリエステルが数量微減の金額増となり、全体としては、数量で4%減の59万8,100トン、金額で1%増の13億2,810万ドルと数量微減の金額微増となった。

合繊長繊維糸の主要市場は、金額で、中国、香港、ベトナム、EU、日本、韓国の順で、この6カ国で全体の75%を占めている。ベトナム、EU、日本は数量、金額共に増加、韓国は数量増の金額横ばい、中国、香港は数量、金額共に減少推移となった。

織物類の輸出は、金額で4%減の19億1,858万ドルとなった。

内訳は、中心品目のポリエステル(長)織物が数量で6%増の8億7,010万S M、金額で6%増の6億3,328万ドルと健闘しているが、一方、ナイロン(長)織物は数量で17%減の5億4,539万S M、金額で12%減の3億5,098万ドル、綿織物が数量で17%減の2億1,618万S M、金額で11%減の3億2,106万

ドル、合繊短繊維織物は数量で18%減の2億46万SM、金額で10%減の1億8,985万ドルと、何れも2桁の減少推移と苦戦している。なおニット生地は金額で2%増の15億860万ドルと微増推移となった。

ポリ(長)織物の主要市場は、数量ベースで、香港、中国、ブラジル、EU、ベトナム、アラブ首長国、米国の順で、このうち、香港と米国向けは数量、金額共に減少推移、EUは数量増の金額減、その他諸国は増加推移となっている。

また、衣料品の輸出は、布帛製衣料品が11%減の2億5,378万ドル、ニット製衣料品は11%減の5億3,872万ドルと各々不振推移となっている。

< 輸入も2%減の19億5,596万ドルと低調推移 >

繊維品の輸入は、素材類(綿・糸)の輸入は増加しているが、織物類、衣料品の輸入が低調で、2%減の19億5,596万ドルと微減推移となっている。

地域別輸入では、全体の68%を占める東アジアからの輸入は1%減の13億2,778万ドル、同14%の欧州は5%減の2億6,826万ドル、同10%の北米は6%減の1億8,646万ドルと、主要地域からの輸入は何れも減少推移となっている。

国別では、最大輸入国は中国で13%増の4億7,030万ドル、以下EU(2億3,587万ドル:5%減)、米国(1億8,320万ドル:6%減)、日本(1億7,514万ドル:10%減)、ベトナム(1億3,056万ドル:6%増)、香港(1億1,187万ドル:36%減)、インド(9,392万ドル:12%増)、韓国(9,005万ドル:24%減)、オーストラリア(6,860万ドル:35%増)の順となっている。

品目別輸入では、綿類は天然繊維原料の輸入が中心であるが、数量で9%減の26万2,220トン、金額で3%増の4億1,153万ドルと数量減の金額増となっている。

糸類の輸入は、数量で3%増の8万296トン、金額で7%増の3億45万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。内訳は、主力の合繊長繊維糸の輸入は、数量で5%減の3万7,871トン、金額で6%増の1億8,167万ドルと数量減の金額増となった。その他の糸の輸入は、綿糸が数量で21%増の2万8,714トン、金額で17%増の7,936万ドルと大幅増勢で推移、一方、合繊短繊維糸は、数量で6%減の1万420トン、金額でも6%減の2,518万ドルと低調な推移となった。

織物類の輸入は、金額で2%減の1億1,849万ドルと微減推移となっている。内訳は、綿織物が数量で4%増の6,546万SM、金額で横ばいの4,179万ドルと数量増の金額横ばい、合繊短繊維織物は数量で15%減の6,489万SM、金額で4%増の2,346万ドルと数量減の金額増、また、ポリエステル長繊維織物は数量で18%減の1,363万SM、金額で22%減の1,024万ドルと数量、金額共に何れも低調な推移となった。

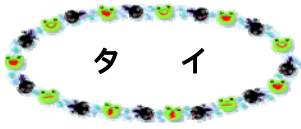
一方、昨年は中国からの輸入増で大幅に増加した衣料品の輸入は、布帛製衣料品が10%減の4億3,853万ドル、ニット製衣料品が6%減の3億2,166万ドルと今年に入って減少基調が続いている。

2007年1～9月の台湾の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル、%

	輸 入				輸 出				前年比					
	2006年実績		2007年(1～9)		2006年実績		2007年(1～9)		2006年実績		2007年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計														
原料(綿)合計	TON	2,711,416	TON	1,955,957	TON	8,639,065	TON	8,639,065	TON	81	TON	98	TON	98
スフ綿	TON	529,011	TON	411,527	TON	1,191,678	TON	490,913	TON	81	TON	96	TON	96
合繊綿	TON	31,375	TON	30,479	TON	135,265	TON	66,886	TON	77	TON	101	TON	101
(ポリエステル)	TON	50,009	TON	38,102	TON	920,097	TON	397,171	TON	81	TON	94	TON	94
(アクリル)	TON	11,919	TON	7,717	TON	633,144	TON	283,683	TON	74	TON	85	TON	85
糸合計	TON	2,686	TON	3,835	TON	254,404	TON	100,182	TON	97	TON	110	TON	110
	TON	106,006	TON	80,296	TON	2,191,776	TON	735,042	TON	97	TON	100	TON	100
人絹糸	TON	7,889	TON	7,955	TON	31,665	TON	6,005	TON	81	TON	86	TON	86
スフ糸	TON	3,469	TON	1,462	TON	34,762	TON	13,052	TON	146	TON	156	TON	156
合繊長繊維糸	TON	53,197	TON	37,871	TON	1,752,135	TON	598,100	TON	96	TON	101	TON	101
(ナイロン)	TON	28,880	TON	20,111	TON	668,802	TON	149,121	TON	92	TON	96	TON	96
(ポリエステル)	TON	11,593	TON	7,908	TON	975,236	TON	427,121	TON	98	TON	105	TON	105
合繊短繊維糸	TON	14,443	TON	34,554	TON	187,538	TON	42,415	TON	85	TON	84	TON	84
綿糸	TON	33,774	TON	28,714	TON	167,945	TON	74,544	TON	108	TON	109	TON	109
織物合計														
絹織物	千SM	162,161	千SM	118,489	千SM	2,665,626	千SM	1,918,581	千SM	96	千SM	96	千SM	96
人絹織物	千SM	4,376	千SM	2,918	千SM	351	千SM	43	千SM	88	千SM	101	千SM	101
スフ織物	千SM	7,818	千SM	4,563	千SM	31,705	千SM	19,619	千SM	72	千SM	82	千SM	82
合繊長繊維織物	千SM	5,215	千SM	3,580	千SM	112,401	千SM	74,673	千SM	107	千SM	92	千SM	92
(ナイロン)	千SM	48,245	千SM	34,311	千SM	1,746,563	千SM	1,304,081	千SM	100	千SM	100	千SM	100
(ポリエステル)	千SM	17,596	千SM	14,428	千SM	537,479	千SM	545,393	千SM	83	千SM	88	千SM	88
合繊短繊維織物	千SM	17,488	千SM	10,243	千SM	798,984	千SM	870,103	千SM	106	千SM	106	千SM	106
綿織物	千SM	28,987	千SM	23,456	千SM	279,634	千SM	200,462	千SM	82	千SM	90	千SM	90
毛織物	千SM	56,664	千SM	41,785	千SM	483,706	千SM	216,184	千SM	83	千SM	89	千SM	89
不織布	千SM	8,825	千SM	6,651	千SM	6,555	千SM	724	千SM	72	千SM	75	千SM	75
不織布	TON	74,002	TON	53,744	TON	219,097	TON	52,120	TON	105	TON	108	TON	108
タイヤコード織物	TON	40,711	TON	31,382	TON	131,897	TON	27,437	TON	115	TON	117	TON	117
コーテッド織物	TON	33,880	TON	28,408	TON	1,014,710	TON	144,926	TON	91	TON	94	TON	94
ニット生地		31,416		19,950		1,968,306		1,508,602		102		102		102
ニット製衣料		475,145		321,664		789,436		538,723		89		89		89
布帛製衣料		680,599		438,527		369,413		253,778		89		89		89
その他		305,760		231,813		1,210,122		889,873		98		98		98

出所：台湾通関統計



タイの2007年(1-9月)の繊維品貿易概況

< 輸出は8%増の56億ドルと好調に推移 >

タイの繊維産業は現在パーツ高、原燃料費、人件費、金利の高騰等より、厳しい環境に直面していると伝えられるが、近隣競合諸国の中では、川上から川下まで一貫した生産体制を持つ繊維産業国としての優位性もあり、2007年1-9月の繊維品輸出は、パーツ高に苦しめられながらも、前年比8%増の56億ドルと順調に推移している。

市場別では、州別では、東アジア(シェア:33%)が9%増、北米(シェア:30%)が1%減、ヨーロッパ(シェア:23%)が11%増で、この3大市場で全体の85%を占めているが、東アジア、ヨーロッパが好調に推移しているのに対し、北米が伸び悩んでいる。

国別では、主要輸出国は、米国、EU、日本、中国、アラブ首長国、ベトナム、トルコ、香港、インドネシア、インド順となっており、この10カ国で全繊維品輸出の72%を占めている。

最大市場の米国向けは1%減、EUは6%増と、欧米向は中国に枠が再設定されたが、米国向けは、そのメリットを生かせていない状況となっている。逆に東アジア向けは、中国10%増、ベトナムが57%増、インドネシアが21%増、インド15%増、バングラデシュが7%増、シンガポール36%増と、日本(4%減)、香港(1%減)を除き軒並み増加推移となっているのが注目される。その他では、トルコが61%増、アラブ首長国が21%増と好調に推移している。

これを品目別に見ると、タイの最大輸出品目で全体の繊維品輸出の49%を占める**衣料品**の輸出は、ニット製衣料品は、3%増の16億1,459万ドルと増勢で推移しているが、布帛製衣料品は最大市場の米国が不振で、4%減の11億1,280万ドルと減少推移となっている。

織物類は、太宗の綿織物が大幅に増加、また、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物は量的には伸び悩んでいるが、単価が上昇したことにより、全体として、数量で4%増の11万7,810トン、金額では16%増の7億8,813万ドルと好調に推移している。

原料関係の輸出は、**綿類**は、スフ綿は好調に推移、また、太宗の合繊綿はアクリル綿は健闘しているが、中心品目のポリエステル綿が特に数量で大幅に減少し、全体として、数量で3%減の26万3,503トン、金額で17%増の4億1,779万ドルと数量減の金額増となった。

糸類の輸出は、中心品目の合繊長繊維糸は、ポリエステル、ナイロンが共に増加推移となり、綿糸も好調で、全体として、数量で9%増の25万7,990トン、金額で21%増の7億2,079万ドルとなった。

2007年1～9月のタイの繊維品輸出入状況

単位：1000ドル、%

	輸 入					
	2006年実績		2007年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計		2,997,258		2,475,129		110
原料(綿)合計	TON	727,507	TON	566,665	100	102
スプ綿	TON	15,978	TON	4,237	132	147
合繊綿	TON	78,951	TON	37,524	109	123
(ポリエステル)	TON	40,400	TON	24,694	119	133
(アクリル)	TON	24,034	TON	7,106	70	84
糸合計	TON	426,505	TON	349,822	105	107
人絹糸	TON	10,592	TON	1,831	95	105
スフ糸	TON	1,124	TON	312	157	160
合繊長繊維糸	TON	286,714	TON	70,396	116	117
(ナイロン)	TON	127,419	TON	23,809	107	109
(ポリエステル)	TON	103,348	TON	36,724	115	123
合繊短繊維糸	TON	45,486	TON	6,006	67	77
綿糸	TON	57,750	TON	8,964	80	95
織物合計		634,199		490,883	94	105
絹織物	TON	3,621	TON	64	111	132
人絹織物	TON	9,999	TON	533	53	84
スフ織物	TON	45,198	TON	11,509	83	110
合繊長繊維織物	TON	153,723	TON	22,802	109	111
(ナイロン)	TON	25,385	TON	2,676	104	107
(ポリエステル)	TON	88,379	TON	11,932	100	100
合繊短繊維織物	TON	105,402	TON	13,741	80	87
綿織物	TON	268,933	TON	35,306	98	106
毛織物	TON	26,862	TON	972	94	132
不織布	TON	78,646	TON	15,095	104	115
タイヤコード織物	TON	76,966	TON	17,362	105	115
コーテッド織物	TON	51,915	TON	10,786	104	127
ニット生地	TON	379,079	TON	45,721	113	117
ニット製衣料		89,603		76,708		113
布帛製衣料		149,526		149,764		135
その他		383,312		321,575		111

	輸 出					
	2006年実績		2007年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計		6,963,823		5,600,134		108
原料(綿)合計	TON	475,945	TON	417,788	97	117
スプ綿	TON	65,955	TON	91,476	126	194
合繊綿	TON	377,803	TON	305,426	88	108
(ポリエステル)	TON	223,737	TON	172,951	82	99
(アクリル)	TON	152,785	TON	131,266	102	121
糸合計	TON	788,640	TON	720,788	109	121
人絹糸	TON	14,286	TON	8,112	73	81
スフ糸	TON	75,985	TON	93,592	148	166
合繊長繊維糸	TON	356,829	TON	331,782	109	126
(ナイロン)	TON	92,315	TON	82,955	113	121
(ポリエステル)	TON	220,095	TON	189,905	104	118
合繊短繊維糸	TON	142,464	TON	117,850	96	105
綿糸	TON	139,724	TON	131,524	120	126
織物合計		935,189		788,128		116
絹織物	TON	14,540	TON	173	96	113
人絹織物	TON	2,860	TON	320	97	115
スフ織物	TON	59,324	TON	52,588	91	107
合繊長繊維織物	TON	200,151	TON	159,716	98	110
(ナイロン)	TON	15,969	TON	12,364	104	108
(ポリエステル)	TON	95,543	TON	77,951	102	115
合繊短繊維織物	TON	266,083	TON	220,532	100	114
綿織物	TON	386,477	TON	334,502	116	122
毛織物	TON	681	TON	67	179	129
不織布	TON	72,264	TON	20,371	97	108
タイヤコード織物	TON	76,586	TON	63,179	98	108
コーテッド織物	TON	46,244	TON	6,963	72	84
ニット生地	TON	159,364	TON	19,187	93	100
ニット製衣料		2,085,404		1,614,591		103
布帛製衣料		1,524,807		1,112,801		96
その他		799,380		672,964		115

出所：タイ通関統計

< 輸入は 10%増の 24 億 7,513 万ドルと 2 桁の増加 >

輸入は 10%増の 24 億 7,513 万ドルと 2 桁の増加となっている。

地域別では、東アジアが 70%弱と圧倒的なシェアを占め 12%増、続いて欧州が同 10%を占め 4%増、同じく同 10%の北米が 24%増となっており、東アジア、北米からの輸入増が目立っている。

国別では、中国、台湾、米国、EU、日本、香港、韓国、インドネシア、オーストラリア、インドが 10 大輸入先で全繊維品輸入の 86%を占めている。最大輸入先の中国からの輸入は 18%増の 6 億 7,876 万ドル、続く台湾が 4%増の 2 億 5,846 万ドル、EUが 2%増の 2 億 3,634 万ドル、米国が 24%増の 2 億 4,453 万ドル、日本が 4%増の 2 億 1,822 万ドル、香港が 1%減の 1 億 3,273 万ドル、韓国が 17%増の 1 億 519 万ドル、インドが 39%増の 8,307 万ドル、オーストラリアが 34%減の 8,745 万ドル、インドネシアが 10%増の 9,008 万ドルとなっており、特に、中国、米国、韓国、インドからの輸入が高い伸びを記録している。

品目別では、綿類の輸入は天然繊維原料の輸入が主体であるが、数量で横ばいの 39 万 2,639 トン、金額で 2%増の 5 億 6,667 万ドルとほぼ横ばいで推移している。

糸類の輸入は合繊長繊維糸の輸入がポリエステル、ナイロン共に増加しており、数量で 5%増の 8 万 9,293 トン、金額で 7%増の 3 億 4,982 万ドルと、数量、金額共に増加推移となっている。

織物類の輸入は、合繊長繊維織物は増加したが、太宗の綿織物が数量減の金額増となり、全体として数量で 6%減の 8 万 5,912 トン、金額で 5%増の 4 億 9,088 万ドルと数量減の金額増となった。その他では、ニット生地の輸入は、数量で 13%増の 4 万 5,721 トン、金額で 17%増の 3 億 3,416 万ドルと数量、金額共に 2 桁の増加推移となった。

また、衣料品の輸入は、ニット製衣料品が 13%増の 7,6171 万ドル、布帛製衣料品は 35%増の 1 億 4,976 万ドルと、額は未だ小さいが、特に布帛製衣料品の輸入が、中国、EUからの輸入を中心に、大幅な伸び率を記録している。



インドネシア

インドネシアの 2007 年 1 - 6 月の繊維品貿易概況

< 輸出は 6%増の 48 億 5,036 万ドルと順調に推移 >

インドネシアの繊維産業は、人件費、燃料費の高騰など諸経費のコストアップ、設備の老朽化、中国品の密輸入の急増等により、特に国内市場向けの市況悪化が懸念されているが、2007 年 1-6 月の繊維品輸出は、2005 年から枠が撤廃され、また競合国の中国には枠が再設定されたこともあり、米国向を中心に好調に推移し、前年同期比 6%増の 48 億 5,036 万ドルと順調な推移となっている。

地域別輸出をみると、シェア 43%の北米は 11%増、同 23%の欧州は 7%増、同 21%の東アジアが 1%減、同 6%の西アジアは 9%増となっており、主要地域では、東アジアの微減を除き増加しているが、特に

北米向けの好調が目立っている。

主要輸出国は、1位米国(19億784万ドル:11%増)、続いてEU(9億2,279万ドル:1%増)、日本(2億4,615万ドル:3%増)、トルコ(1億7,482万ドル:48%増)、アラブ首長国(1億4,611万ドル:9%増)、韓国(1億3,095万ドル:9%増)、ブラジル(1億2,948万ドル:35%増)、マレーシア(1億360万ドル:18%増)、中国(7,596万ドル:2%増)、シンガポール(7,563万ドル:8%減)、サウジアラビア(7,358万ドル:24%増)、カナダ(7,028万ドル:5%増)の順となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全繊維品輸出額の58%を占めているが、このうち、ニット製衣料品の輸出は11%増の10億9,920万ドル、太宗の布帛製衣料品は4%増の17億300万ドルで、いずれも米国向けを中心に増勢で推移している。

ニット衣料品市場のベスト5は、米国(6億6,151万ドル:23%増)、EU(2億6,815万ドル:7%減)、アラブ首長国(2,408万ドル:12%増)、日本(2,246万ドル:10%増)、カナダ(1,711万ドル:19%増)の順で、米国、EU向けで全体の85%と圧倒的なシェアを占めているが、米国向けは好調推移、EUは不振と対照的な結果となっている。

布帛製衣料品市場のベスト5は、米国(11億464万ドル:7%増)、EU(3億2,388万ドル:6%減)、カナダ(3,936万ドル:5%増)、アラブ首長国(3,877万ドル:17%増)、日本(3,756万ドル:17%減)で、ここでも米国、EU向けで84%と圧倒的なシェアを占め、ニット衣料品同様、米国が好調に推移している。

織物類の輸出も順調で、全体で4%増の6億1,099万ドルとなった。

品種別では、主要織物では、主力の綿織物は12%減の1億7,495万ドルと不振推移となっているが、合繊長繊維織物が12%増の2億5,731万ドル、合繊短繊維織物が15%増の1億3,617万ドルと健闘している。

一方、原料関係の輸出は好調に推移しており、まず、綿類は、スフ綿、合繊綿が共に増勢で推移し、全体で20%増の1億5,823万ドルとなった。

また糸類の輸出は、合繊長繊維系、合繊短繊維系が好調に推移し、綿糸は低調な推移となっているが、糸全体として8%増の9億6,383万ドルとなった。

< 輸入は25%増の9億8,739万ドルと大增勢で推移 >

輸入は、糸類は低調な推移となっているが、綿類、織物類、衣料品ともに増勢で推移し、全体として25%増の9億8,739万ドルと大幅に増加している。

地域別では、シェア52%を占める東アジアからの輸入は22%増の5億1,497万ドル、シェア17%の北米は17%増の1億6,941万ドル、シェア10%のアフリカは70%増の9,635万ドル、シェア9%の欧州は48%増の8,631万ドル、同じくシェア7%の大洋州は2%増の6,821万ドルとなっており、何れの地域も増勢推移となっているが、特に欧州、アフリカの伸びが目立っている。

国別の主要輸入先は、米国(1億6,740万ドル:16%増)、中国(1億5,105万ドル:32%増)、台湾(7,267万ドル:12%増)、インド(7,180万ドル:103%増)、豪州(5,807万ドル:12%減)、日本(5,554万ドル:28%増)、EU(5,263万ドル:3%増)、韓国(5,062万ドル:12%増)の順となっている。

2007年1～6月のインドネシアの繊維品輸出入状況

単位：1000ドル、%

	輸 入						輸 出												
	2006年実績			2007年(1～6)			2006年実績			2007年(1～6)			前年比						
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額					
繊維品合計																			
原料(綿)合計	TON	228,548	286,211	121,717	158,231	113	120	TON	638,181	840,080	403,564	553,387	142	140	TON	1,714,157	987,387	125	
スフ綿	TON	90,687	137,709	47,274	86,866	108	137	TON	28,919	39,236	32,988	37,174	694	391	TON	84,080	103,002	121	133
合繊綿	TON	79,750	99,523	38,007	46,832	104	106	TON	86,089	149,341	55,241	103,002	121	133	TON	29,686	24,872	161	170
(ポリエステル)	TON	77,440	94,989	37,230	45,884	106	111	TON	22,281	29,686	18,431	24,872	161	170	TON	109,025	71,818	108	127
(アクリル)	TON	396	1,405	90	93	41	9	TON	59,091	109,025	34,007	71,818	108	127	TON	301,925	126,868	84	90
糸合計	TON	819,577	1,791,253	412,502	963,833	98	108	TON	140,636	301,925	46,092	126,868	84	90	TON	84,746	45,881	102	104
人絹糸	TON	4,883	25,419	5,171	18,562	271	175	TON	22,934	84,746	12,065	45,881	102	104	TON	1,673	813	95	99
スフ糸	TON	85,112	215,859	51,925	148,896	131	153	TON	81,235	153,560	15,077	47,036	56	69	TON	15,159	42,326	67	60
合繊長繊維糸	TON	327,469	587,083	158,802	308,053	95	107	TON	15,159	42,326	3,349	11,679	67	60	TON	58,613	82,741	32	46
(ナイロン)	TON	33,988	106,476	17,501	58,275	104	113	TON	6,006	11,052	2,443	5,411	81	100	TON	24,089	44,153	124	127
(ポリエステル)	TON	288,573	459,339	137,663	237,181	93	106	TON	26	474	35	128	316	38	TON	194,539	99,980	123	123
合繊短繊維糸	TON	271,841	614,676	137,097	325,669	99	106	TON	26	474	35	128	316	38	TON	702	190	91	91
綿糸	TON	129,345	344,117	59,093	160,928	83	86	TON	26	474	35	128	316	38	TON	436	401	216	216
織物合計	TON	1,217,339	610,990	2	84	5	36	TON	26	474	35	128	316	38	TON	47,216	30,329	148	148
絹織物	TON	95	776	2	84	5	36	TON	26	474	35	128	316	38	TON	3,585	2,322	117	117
人絹織物	TON	49,426	22,113					TON	26	474	35	128	316	38	TON	30,052	20,915	159	159
スフ織物	TON	43,879	20,045					TON	26	474	35	128	316	38	TON	1,990	894	150	150
合繊長繊維織物	TON	488,336	257,305					TON	26	474	35	128	316	38	TON	23,172	11,323	130	130
(ナイロン)	TON	2,360	936					TON	26	474	35	128	316	38	TON	114,701	53,156	112	112
(ポリエステル)	TON	178,615	110,649					TON	26	474	35	128	316	38	TON	3,657	2,535	126	122
(強力糸織物)	TON	176,348	91,011					TON	26	474	35	128	316	38	TON	33,726	18,277	106	118
合繊短繊維織物	TON	235,244	136,170					TON	26	474	35	128	316	38	TON	45,971	24,088	112	114
綿織物	TON	397,994	174,949					TON	26	474	35	128	316	38	TON	20,838	9,616	87	91
毛織物	TON	576	754	19	165	198	233	TON	26	474	35	128	316	38	TON	6,615	3,789	109	104
不織布	TON	14,514	34,664	7,149	17,436	94	100	TON	26	474	35	128	316	38	TON	71,589	18,387	157	157
タイヤコード織物	TON	21,065	85,536	8,758	34,312	79	76	TON	26	474	35	128	316	38	TON	29,986	18,387	157	157
コートテッド織物	TON	3,495	17,576	1,161	6,046	51	55	TON	26	474	35	128	316	38	TON	38,767	28,624	199	199
ニット生地	TON	13,937	88,862	8,516	47,622	116	106	TON	26	474	35	128	316	38	TON	112,598	136,736	121	121
ニット製衣料	TON	2,159,239	1,099,200					TON	26	474	35	128	316	38	TON				
布帛製衣料	TON	3,374,674	1,702,995					TON	26	474	35	128	316	38	TON				
その他	TON	365,992	390,934					TON	26	474	35	128	316	38	TON				

(注)強力糸織物は、ナイロン・ポリエステル区分が不可

出所：インドネシア通関統計

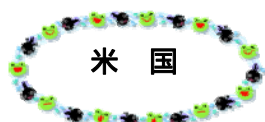
品目別では、綿関係では、綿花の輸入が米国、インド、アフリカ諸国から急増、また、合繊綿、スフ綿の輸入も大きく伸びており、綿全体として40%増の5億5,339万ドルと大幅な増加となった。

糸関係は、人絹糸、綿糸の輸入が増加しているが、太宗の合繊長繊維糸の輸入が大幅に減少し、全体で10%減の1億2,687万ドルとなった。

織物類の輸入は、太宗の綿織物、合繊長繊維織物、また合繊短繊維織物の輸入が共に増加し、全体として23%増の9,998万ドルとなった。

その他では、ニット生地は4%増の3,790万ドル、タイヤコード織物は14%増の2,409万ドルと各々増加した。

衣料品の輸入は、額的には小さいが、中国からの輸入が大きく増加しており、ニット製衣料品は57%増の1,839万ドル、また布帛製衣料品は99%増の2,862万ドルと、各々大幅な伸び率を記録した。



2007年10月の繊維品輸入

～ベトナム始めとするASEAN勢の伸びが顕著～

米国商務省が発表した2007年10月の米繊維品輸入は、48億8,000万SME（平方メートル換算）で前年同月比3.5%増（1～10月前年同期比：2.3%増）となった。アパレルが前年同月比3.0%増、糸の不振が続くものの、織物、その他（アパレル以外の繊維製品）が伸びたノン・アパレルが前年同月比3.8%増となったことから、全体として堅調な推移となった。主要国では中国、ベトナムの好調が依然として続いており、この両国に加えてホンジュラス、サルバドル、タイ、カンボジア、EUの主要国などが前年同月比で、2桁の伸びを見た。

米国の繊維品輸入推移(商品別)

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合 計	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	0.7	16,103	0.4	32,812	0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,827	6.8	22,010	10.3	50,836	8.3
2006年	29,607	2.7	22,539	2.4	52,146	2.6
2007年	25,195	0.4	19,941	4.8	45,136	2.3
1月	2,373	5.2	1,919	13.0	4,292	2.2
2月	2,250	4.5	1,723	8.6	3,973	6.2
3月	2,341	0.9	1,797	6.5	4,138	2.2
4月	2,411	4.2	1,614	8.1	4,025	0.4
5月	2,711	0.2	1,833	9.9	4,543	3.9
6月	2,699	0.6	2,029	2.0	4,729	0.5
7月	2,634	4.5	2,157	6.2	4,791	5.3
8月	2,627	1.0	2,373	2.5	4,999	0.6
9月	2,489	2.2	2,276	2.1	4,766	0.1
10月	2,660	3.8	2,220	3.0	4,880	3.5

注：前年比 は減少。 出所：米国商務省（DOC）10月の輸入。

【10月の主要地域別輸入状況】

米国の繊維品輸入推移(主要地域・国別)

単位：100万SME、%

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年 (1-10)	前年 同期比
全世界	42,227	46,936	50,836	52,149	45,136	2.3
NAFTA	7,238	7,373	6,892	5,864	4,261	15.7
メキシコ	3,926	4,101	3,883	3,425	2,595	11.6
カナダ	3,312	3,272	3,009	2,439	1,666	21.3
CBI	4,046	4,168	4,169	3,796	3,110	2.1
ホンジュラス	1,165	1,209	1,262	1,144	1,020	6.4
エルサルバドル	895	895	897	744	689	11.1
ドミニカ共和国	758	772	725	588	333	33.1
ビッグ4	12,633	16,128	20,595	22,537	21,143	12.2
中国	8,288	11,662	16,763	18,614	18,152	17.1
韓国	2,097	2,301	2,027	2,139	1,659	7.8
台湾	1,356	1,302	1,083	1,172	974	2.3
香港	892	862	721	613	358	34.3
アセアン	4,980	5,140	5,145	5,754	4,988	1.4
タイ	1,098	1,114	1,052	1,019	815	5.8
インドネシア	1,151	1,275	1,354	1,599	1,384	1.4
フィリピン	794	711	643	694	482	19.4
ベトナム	827	905	950	1,148	1,246	26.0
カンボジア	561	673	740	870	757	3.0
EU(15カ国)	2,059	2,063	1,912	1,698	1,437	1.2
イタリア	533	462	385	325	283	4.8
ドイツ	484	479	453	383	287	13.6
その他主要国						
パキスタン	2,690	2,970	3,290	3,567	2,702	11.9
インド	1,666	1,915	2,334	2,654	2,323	3.6
バングラ	1,110	1,109	1,314	1,495	1,349	5.3
トルコ	1,026	982	844	725	560	9.8

注：前年比は減少。 出所：米国商務省(DOC)10月の輸入。

- ビッグ4からの輸入は10月に入っても、前年同月比11.9%増の中国だけが好調といった大きな流れは変わらず、全体として同7.7%増となった。韓国同18.6%減、台湾同2.0%減、香港同23.7%減と不振が続いている。
- アパレルが中心のアセアンからの輸入は、前年同月比46.5%増のベトナムの好調が続いているのに加えて、タイ同15.1%増、インドネシア同6.6%増、カンボジア同16.3%増と盛り返した結果、アセアンからの輸入全体としては、同13.7%増となった。
- NAFTAパートナーからの輸入は依然として低迷が続いている。アパレル中心のメキシコが前年同月比9.3%減、糸と織物主体のカナダは同25.4%の激減と、両国合わせて同16.1%減の大幅な減少が続いている。
- CBIからの輸入は、ホンジュラス前年同月比19.6%増、サルバドル同14.5%増と好調な推移となっているが、その他の国からの輸入が不振で、全体で同1.7%減と6ヶ月連続の減少となった。
- EU(15カ国)からの輸入は、主要国のイタリアが前年同月比16.0%増、フランス同60.0%増、ドイツ同16.1%増と各々が好調であったことから、全体として同14.2%増となった。
- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、インドが前年同月比4.0%増と伸びただけで、不振の続くパキスタンが同7.2%減、バングラデシュ同6.4%減、トルコ同7.4%減と軒並み前年同月を下回った。

組合関係の会議と催事

〔2007年11月〕

1日(木)

輸入(東京)「第107回欧州・北米製品委員会」が開催され、委員交代及び副委員長の互選の後、ザ・ウォルマート・カンパニー/高橋経済調査部長を講師に「最近のアパレル消費動向について」講演があり、「ベトナム調査ミッション」「JITAC EUROPEAN TEXTILE FAIR」への協力について審議が行われ、併せて情報交換が行われた。

2日(金)

輸入(箱根)「第18回絹委員会」が開催され、「訪インド市場調査ミッション」絹需要振興事業について審議を行った後、情報交換が行われた。

5日(月)

輸入(東京)高橋公認会計士による監査が行われた。

6日(火)

輸入(東京)ロシア・ファッション企業関係者が来所され、文化ファッション大学大学院・竹内教授と事務局が懇談した。

9日(金)

輸入(東京)「第3回通商対策委員会」が開催され、EPA交渉を巡る最近の状況について中国財政部への「増値税還付率引下げに対する要望」について説明と報告があり、情報交換を行った。

15日(木)

輸入(名古屋)「第16回貿易実務研修会」(名古屋地区)が名古屋税関担当官を講師に迎え、終日にわたり講演が行われ、名古屋地区組合員15名が参加された。

19日(月)

輸入(東京)タイ国工業省幹部と当組合繊維貿易情報センター・古宮主任研究員と事務局が面談した。

22日(木)

輸入(東京)「第16回貿易実務研修会」(東京地区)が東京税関担当官を講師に迎え、終日にわたり講演が行われ、東京地区組合員118名が参加された。
ウズベキスタン大使館経済担当参事官が来諸され懇談した。

26日(月)

輸入(東京)「第146回企画委員会」が開催され、AJCEP交渉状況について日中繊維貿易定期協議絹委員会及び欧州・北米製品委員会の海外調査実施計画 中国財政部等訪問の報告 中国アジア製品委員会「中国東北部」調査実施報告 業務報告について説明と報告が行われた。

28日(水)

輸入(大阪)「第16回貿易実務研修会」(大阪地区)が大阪税関担当官を講師に迎え、終日にわたり講演が行われ、名古屋地区組合員81名が参加された。

29日(木)

輸入(東京)OB会が開催された。

30日(金)

輸入(大阪)日本黄麻製品輸入協議会「第124回運営委員会」が開催され、2008年黄麻製品輸入見通し 委員交代について審議の後、情報交換を行った。

トルコ・ルーマニア市場調査団派遣

日本繊維輸出組合は、2007年11月10日から17日まで、トルコ及びルーマニアについて、EU及び周辺地域への加工供給基地として捉え、両国への日本の原料、織物の輸出の可能性を調査するために、市場調査団を派遣した。

メンバーは次の通り。

伊藤忠商事(株)	清水 源也	テキスタイル貿易ジーンズ課課長
三菱商事(株)	柳川 勝彦	繊維原料部部长
瀧定大阪(株)	藤井 孝	貿易部次長
豊田通商(株)	土井 拓雄	繊維製品部部长職
日本繊維輸出組合事務局	内海 博基 鬼頭 和男	専務理事 総務部長



**繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と
「保険期間延長手続き」について**

別表に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成20年1月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6ヵ月」延長されます。

記

- * 平成19年7月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成19年1月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

**(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6ヵ月、「前受け以外」12ヵ月
となっております。**

1. 提出期限：平成20年1月21日(月)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
保険期間延長依頼書.....2通
(用紙は事務局で準備しています。)
延長を必要とする包括保険申込書のコピー.....1通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きのFAXによる申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る2007年7月度受付保険申込書番号

受付局 区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 7	103542 ~ 104179	101403 ~ 101584	100089 ~ 100104
	504686 ~ 505088		

前受け以外に係る2007年1月度受付保険申込書番号

受付局 区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 7	100001 ~ 100548 ----- 500001 ~ 500923	100001 ~ 100228	100001 ~ 100019

年末年始の包括保険申込書の受付事務について

独立行政法人日本貿易保険大阪支店の包括保険申込書の受付が、年末は12月28日（金）に終了し年始は1月4日（金）から開始されることに伴い、当組合の同申込書の受付事務は、下記要領にて行いますのでご通知します。

記

組合への持込 または FAX	受付月日	交付月日
12月28日(金) 午後3時まで	12月28日(金)	1月4日(金) 午前中
12月28日(金) 午後3時以降 ~ 1月4日(金) 正午まで	1月4日(金)	1月7日(月)

「アルメニア」向け他4カ国の保険引受方針変更について

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「アルメニア」（国コード：151）向け他4カ国の繊維包括保険の引受方針を変更し、実施日より適用する旨連絡がありましたのでご通知します。

この結果、下記の取扱いとなります。

記

国倍率及び引受条件（条件付引受国）（5カ国）

国コード	国名	国倍率	引受限度額	ILC取得条件
151	アルメニア	6.0倍（旧6.0倍）	20億円（旧10億円）	有り（据置）
149	イエメン	6.0倍（旧6.0倍）	20億円（旧10億円）	無し（据置）
316	ジャマイカ	6.0倍（旧6.0倍）	20億円（旧10億円）	無し（据置）
543	タンザニア	6.0倍（旧6.0倍）	20億円（旧10億円）	無し（据置）
154	キルギス	8.0倍（旧8.0倍）	5億円（旧1億円）	有り（据置）

国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

実施日： 平成19年12月3日

国カテゴリーの変更について

このたび独立行政法人日本貿易保険(NEXI)から、“「カナリア諸島(西)」(国コード：523)向け他1カ国の繊維包括保険の国カテゴリーを変更し、実施日より適用する。”旨連絡がありましたのでご通知いたします。

この結果、下記の取扱いとなります。

記

1. 国倍率（通常国）

国コード	国名	国倍率
523	カナリア諸島(西)	0.2倍(旧2.0倍)
502	セウタ及びメリリャ(西)	0.2倍(旧2.0倍)

* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

2. 実施日： 平成19年12月25日

お知らせ

- 2008 年 1 月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2008 年 12 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題について
ご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2008 年 1 月 9 日 (水) 及び 1 月 23 日 (水)
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

- 2007 年税関の年末・年始事務処理要領 -

(東京税関)

東京港における年末年始の通関業務等取り扱いのご案内

年末年始における通関・保稅關係事務を効率的に行うため、以下のとおり取扱うことと致しましたので、ご協力をお願いいたします。

● 12月28日(金)までの輸出入通関關係手続きについて

- ・予備深刻の活用等、早めの申告をお願いいたします。

12月29日(土)から1月3日(木)までの輸出入通関關係手続きについて

(1) 予定表の提出のお願いについて(海上貨物のみ)

- ・事前に予定が判明している場合には、「**輸出入申告予定表**」(別紙様式1)を12月28日(金)までに、「**保稅事務取扱予定表**」(別紙様式2)を12月28日(金)までにそれぞれ貨物の蔵置場所を管轄する税関官署(各官署)通関総括部門又は保稅部門に提出をお願いいたします。
- ・28日(木)17時以降に予定が判明した場合は大井出張所検査・特別通関部門に連絡をお願いいたします。

(2) 通関業務等について

業務部特別通関部門では、東京港地区に蔵置された貨物について以下の業務を行います。

輸出入通関關係業務(海上貨物については年末年始を含む執務時間外のみに対応。航空貨物についてはAir-NACCSで貨物管理されている貨物に対して24時間の対応。)

保稅運送の承認及び到着確認、コンテナリストの受理(執務時間外のみに対応)
搬入事故等が発生した際の連絡受付(執務時間外のみに対応)

業務部特別通関部門

所在地：東京都江東区青海2 56東京港湾合同庁舎1階

電話：03 3599 6645

FAX：03 3599 6640

輸入承認の申請(無償の貨物にかかるものに限る)及び輸入承認証の有効期間延長申請について

年内に輸入承認証の交付を必要とする場合には、12月28日(金)までに申請されるようお願いいたします。また、既に取得している輸入承認証の期限が12月29日(土)から1月3日(木)までの間に到来し、有効期間の延長を必要とする場合には、12月28日(金)までに申請されるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、各税関官署所の通関総括部門又は保稅部門にお問い合わせ

合わせてください。

通関総括部門、保税部門の連絡先

本関	通関総括第1部門	0 3	3 5 9 9	6 3 3 7
	保税取締部門	0 3	3 5 9 9	6 4 2 4
晴海出張所	通関総括部門	0 3	3 5 3 2	2 7 8 5
	保税部門	0 3	3 5 3 2	2 7 8 8
芝浦出張所	通関総括部門	0 3	3 4 5 5	4 5 4 2
	保税部門	0 3	3 4 5 5	4 9 4 2
大井出張所	通関総括第1部門	0 3	3 7 9 0	6 8 1 2
	保税取締部門	0 3	3 7 9 0	6 8 5 3 ~ 4

(大阪税関)

年末・年始における輸出入貨物の取扱事務について

大阪税関においては、平日夜間、休日等執務時間外における輸出入貨物の通関需要に対応するため、南港出張所特別通関部門及び関西空港税関支署特別通関部門に職員を常駐させるとともに、各官署においても常駐時間外の連絡体制として緊急連絡窓口を設置しております。

来る年末・年始期間につきましても、下記のと通りの体制で輸出入通関業務及び保税業務を行います。

〔年末・年始期間：平成19年12月29日(土)～平成20年1月3日(木)〕

平成19年12月6日

大阪税関長 濱田 敏彰

記

・官署別取扱事務

1. 本関及び本関直轄出張所(桜島、富島、安治川、南港及び大手前)管内に上記年末・年始期間中に蔵置されることとなる貨物

年末年始期間中は、1月1日(火)を除き南港出張所特別通関部門において業務を行います(職員常駐時間 08:30～17:00)。その他の官署は、閉庁します。

12月30日(日)につきましては、南港出張所特別通関部門に職員は常駐しておりませんが、事前に業務の要請がありましたら、対応します。また、職員が常駐しない時間帯においては、電話は連絡専用窓口に自動転送されます。

なお、取扱業務について御不明な点がある場合は、あらかじめ管轄官署にお問い合わせください。

2. 関西空港税関支署管内に上記年末・年始期間中に蔵置されることとなる貨物

年末年始期間中は、関西空港税関支署特別通関部門において業務を行います(終日職員が常駐)。

3 . その他の支署・出張所管内に上記年末・年始期間中に蔵置されることとなる貨物

各支署・出張所については、閉庁します。

ただし、事前に業務の要請がありましたら対応しますので、12月28日(金)午後5時までに各支署・出張所に御相談ください。

・ 緊急連絡先

緊急時には各官署の緊急連絡窓口又は次の部署に御連絡ください。

南港出張所 特別通関部門 (Tel 06 - 6614 - 5308)

関西空港税関支署 特別通関部門 (Tel 0724 - 55 - 1719、1720)

大阪税関ホームページ(<http://www.osaka-customs.go.jp/>)でも御案内しております。

通関に係る執務時間外の緊急連絡窓口(大阪税関)

通関について、職員が常駐していない時間帯に緊急に連絡をとる必要があるときに御利用ください。

携帯電話を連絡先としている官署で、携帯電話による連絡ができないときは、管轄官署にかかわらず南港出張所特別通関部門に御連絡ください。

南港出張所特別通関部門の電話は、職員が不在となる時間帯においては、連絡専門窓口へ自動転送されます。



年未年始における税関手続の取扱いについて

神戸税関では、神戸港の年未年始（平成19年12月29日（土）から平成20年1月3日（木）の間）における輸出入通関及び保税に関する事務並びに外貨船用品（機用品）積込承認事務について下記のとおり取り扱います。

記

1. 輸出入通関及び保税に関する事務

ポートアイランド出張所特別通関部門（以下「特別通関部門」という。）において8時30分から17時までの間、輸出入通関手続全般及び輸出入通関に関連する保税手続に関する事務を取り扱います（12月30日（日）及び1月1日（火）を除く。）。

2. 外貨船用品（機用品）積込承認に関する事務

監視部取締部門（本部）において取り扱います。

3. 年未年始における連絡先

税関手続に関する連絡先は下記にお願いします。

（1）上記1に関する事務

8時30分から17時まで（12月30日（日）及び1月1日（火）を除く。）

特別通関部門 TEL 078 - 303 - 3623

上記以外

時間外連絡窓口 TEL 078 - 333 - 3000

（2）上記2に関する事務

・監視部取締部門（本部） TEL 078 - 333 - 3048

（3）その他税関手続に関する事務

・時間外連絡窓口 TEL 078 - 333 - 3000

また、神戸税関ホームページ〔 <http://www.kobe-customs.go.jp/kobe/> 〕にも掲載しておりますので、併せて御案内いたします。

年末年始の税関業務処理体制について

名古屋税関

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、及び西部各出張所における年末年始の通関・保税・監視関係手続については、下記のとおり取り扱います。

なお、年末は、輸出入申告等が集中することも予想されますが、税関においては、迅速・適正な業務処理に努めてまいりますので、関係各位におかれましても、申告・申請等の手続については、できるだけ早めに行っていただきますようご協力をお願いします。

記

1. 輸出入通関・保税関係手続

月 日	本関並びに稲永、金城埠頭、南部及び西部各出張所	中出張所
12月29日(土)	業務部特別通関部門(電話:052-654-4117)において処理いたします。【職員常駐時間 08:30~17:00】	12月28日(金) 午後5時までにご連絡ください。
12月30日(日)	通常の日曜日と同様、職員は常駐いたしません。前日までに通関予定が判明している場合は、職員常駐時間内に、業務部特別通関部門にご連絡ください。	
12月31日(月)	業務部特別通関部門において処理いたします。【職員常駐時間 08:30~17:00】	
1月1日(火)	終日閉庁	
1月2日(水) 1月3日(木)	業務部特別通関部門において処理いたします。 職員常駐時間 08:30~17:00	

(注) 保税業務については、包括保税運送承認等、特別通関部門では処理できない業務があります。ご不明な点は、12月28日(金)までに監視部保税取締第1部門(電話:052-654-4094)まで照会願います。

職員常駐時間外に緊急の用件が生じた場合は、次へ照会願います。

監視部監視取締部門 電話:052-398-4246

2. 監視関係手続

月 日	監視部監視取締部門	監視部許可通関部門、南部及び西部出張所
12月29日(土) ~ 1月3日(木)	通常どおり	監視部監視取締部門本部において処理いたします。

3. その他

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、及び西部各出張所以外の官署における年末年始の税関業務処理体制については、それぞれの官署から関係者にお知らせすることとしております。

以上